

花のお江戸を歩く会

貴方の知らない東京ミステリー散歩（第3弾）

「平井聖天～小松川・境川親水公園～小松菜発祥の地」

070-5019-4033（管理人携帯電話）

＜散歩道のご案内＞

散歩ガイドブックに載っているマンネリ散歩コースを離れて、ミステリアルな貴方の知らない東京を歩きましょう。

今回は、東京のはずれ江戸川区を訪ねます。江戸川の豊かな水環境は肥沃な土地を生み江戸近郊農村として蔬菜の生産を中心に発展してきました。江戸時代には徳川八代将軍吉宗をはじめ、代々の将軍は、冬になるとたびたび鷹狩りに訪れたそうです。

ある時、鷹狩りに来た将軍吉宗公に昼食時に何も料理するものがなくて、小松川村あたりでとれた冬菜をすまし汁にに入れて差上げたところ、将軍は、「おお、これはうまい。この菜の名前はなんと申すのか」とたずねたところ「とくに名前はついておりません」と答えると、「このようないまい菜に名前がないのは残念なことだ、この村の名前をとって、これからは小松菜と呼ぶようにせよ」と命じて「小松菜」が誕生しました。

今回は、そんな農村地帯だった小松川村界隈を清流と緑蔭が涼しい「小松川・境川親水公園」を中心にのんびり散歩します。

① 庚申堂浅草道道標

道標は、平井駅北口を荒川に向かって線路沿いに約100メートルほど行ったマンション1階の庚申堂横にあります。原位置は区画整理のためわからなくなっています。安永8年（1779）建立で、正面に「左あさくさ道」、左側面に「安永八己亥六月吉日」、右側面に「行徳市川道、小松新宿道」と刻まれています。

② 平井聖天燈明寺（関東三聖天）

燈明寺は、新義真言宗に属し明雅山明王院と称し、本尊の不動明王は身長1丈3寸(3.9m)で胎内に弘法大師1刀3札の不動明王を安置しているという。開山は元暁法印といわれるが年代は不詳である。

本堂は大正12年関東大震災のため倒壊したので千代澄道大僧正の発願により昭和4年に起工し同19年に完成した。建物は総高14.4m、幅17.1m、奥行27mの金堂造りである。内部の奥の院は飛鳥朝風、中陣は平安朝風に、外陣は鎌倉風に造られ、シャンデリヤは鹿鳴館で使用されたものである。外部は宇治平等院と京都東寺金堂の様式を取入れ、三つ屋根造りで軒ぞりの優雅な姿をした壮麗な建築である。

先代澄道大僧正は、正岡子規や伊藤左千夫などと親交が深かったため、それらの文人たちの短冊をはじめ、雪舟の「水墨山水図」、「南岳草花図譜」、応挙の「宇治橋」、牧溪の「虎

の図」などを所蔵している。燈明寺の別堂である聖天堂は「平井聖天」といわれ、昔から関東三聖天の一つである。江戸時代には歴代将軍の鷹狩の時、聖天に参詣され、また御膳所にもなっていた。この聖天堂は、里見八犬伝の物語や絵山騒動の相馬大作の祈願したことなどでもその名を知られ、昔から多くの人の信仰を集めている。

③ 諏訪神社

平井諏訪神社は、燈明寺の恵祐法印が、出身地である信州の諏訪大社から神霊を勧請して享保年間(1716-1735)創建、下平井村の鎮守社だったといえます。明治5年村社に列格、昭和8年四所神社・稲荷神社を合祀したといえます。→平井街道

④ 平井の渡し跡

平井の渡しは、中川(旧中川)を渡る行徳道の渡し場です。平井聖天への参詣路としても賑わいました。行徳道は、中川(旧中川)平井の渡しから四股で元佐倉道と交差して、東小松川村、西一之江村、東一之江村を経て今井の渡しに達する道筋を、行徳道とよんでいました。いつ頃できたものかわかりませんが、古くは行徳塩の輸送路のひとつであったと考えられています。庶民はこの道を成田山参詣路に利用したと思われます。江戸方面へは、平井の渡しを渡って、浅草の観音さま(浅草寺)への参詣にも利用されていました。明治32年(1899年)に平井橋が架けられるまで、使用されていました。→旧中川リバーサイド→東新橋→ふれあい橋

⑤ 逆井の富士塚

富士塚は高さ6mほどの小山で昔から「逆井の富士」といわれて、富士信仰の石碑が二十数基建てられている。その中には、小講義の再築記念の碑、明治15年(1882)6月1日桑川新田村結社の小御嶽神社の碑などを始め、「風智の山見聞申言も唯一に国に光を」と刻まれたものや、「富士の山のぼりて見れば何もの善きも悪きも我が心なり」と記された明治17年(1884)6月再築記念の碑などがならんでいる。→白鬚神社

⑥ 正養寺

真言宗豊山派、慈眼山と号しもと善養寺の末。延宝年間に有遍法印が開山し、本尊は木造阿弥陀如来立像である。これはもと胎内仏で、戦時中疎開させてあったが、寺に残されていた本尊が戦災により建物と共に焼失したので胎内仏を本尊とした。

当寺はもと船堀村西船堀六三九番地にあったが荒川の開さくにより大正二年この地に移転した。なおこの敷地には宝泉院があったが明治七年廃寺となっていたので移転と共に合併した。墓地の入口に昭和三十二年三月十日小松川、逆井、平井の有志によって建立された「戦災歿死者慰霊塔」がある。この地区は戦災で殆ど全焼し多くの死者を出した。また都心から逃がれる途中の死者も多かった。空襲の合間を見て改めて火葬にされたその灰がこの塔下に埋められている。毎年護持会によって慰霊祭が執行されている。

⑦ 善通寺

浄土真宗で真光山明灯院と号し京都西本願寺の末、開山は蓮真で康正年間という。本尊は中将姫作の蓮糸織阿弥陀如来曼荼羅をまつる。中将姫は聖武帝の御代横佩右大臣豊成公

の女で、十六歳の時当麻寺に入り実雅阿闍梨を師とし法名を善心法女といった。日夜誦経念仏していると、ある日尼僧が現われて、極楽浄土を見るには蓮糸で極楽浄土を織っておがむがよいといわれた。ただちに百駄の蓮茎が集められた。法女は尼僧と共に糸をとって洗うとこれが五色の色に染まった。そして夕方になると一人の織女が現われて、その夜のうちに一丈五尺の大曼陀羅を織り上げ、翌朝織女はこれを両尼に渡すとどこかに消えてしまった。また尼僧も観無量寿経の話を終ると、私の仕事はもうこれで終わったといって紫の雲に乗って帰られた。善心法女は残りの蓮糸で、如来の髪には自分の髪の毛を織りこんで六尺の尊像を織り上げて、これを庵室に安置して日夜誦経念仏すると、その部屋に紫雲が常にたなびいていたという。

その後千葉介常胤が当麻寺からこの尊像を願い求めて守り本尊とした。かくて常胤より九世平氏胤の次男で下総国曾谷の城主千田太郎宗胤に伝わり、宗胤は後に入道して善導院願阿と号した。その嫡子真太郎宗信は康正年中大谷蓮如上人の弟子となり蓮真と号し、帰国の後小松川に一寺を建立して善導院と名づけ、この尊像を本尊とした。これが普通寺の始まりで、その頃お堂から光明が発するので「光御堂」といわれたという。

後に四世永林上人の代に五分一に移り、六世林説上人の時慶長元年東小松川に移って寺号を普通寺と改めた。大正四年荒川の開さくにより現在地に移転したが、昭和二十年三月戦災で焼失し多くの記録を失った。現在の本堂は鉄筋造りで昭和三十六年に完成した。厨子は宝暦九年阿部伊勢守の寄進で、また墓地には小松川風てん病院長奈良林父子の墓がある。

⑧ 成就院

成就寺は、嘉祥元年(848)慈覚大師が開山、正和3年(1314)舜慶法印が中興したものと伝えられます。本所にあった時、門前に枳の並木があったことから、「からたち寺」と呼ばれています。明治40年に当地へ移転したといえます。

⑨ 大法寺

建長5年(1253)の夏に、日蓮聖人が房州清澄山から鎌倉に向かう途中、亀戸の地を通ったおり、同地の住人、千葉某が聖人の教えに帰依したので、聖人は七文字の題目を書いて与えました。千葉氏はこれを石に刻み、宝塔を建てました。人々は聖人が広宣流布の大願を込めた石であるというので、「広布石」と呼び、参拝祈願するようになりました。その後、数代を経て、千葉常明の一子、万千代が疱瘡を病んで死にましたが、広布石の功德により不思議にも蘇生したといわれています。

万千代は成人すると出家して、本所法恩寺の住職日悦上人の弟子となり名を大権院日巧と改め、大永2年(1522)大法寺を創立しました。(

⑩ 最勝寺(目黄不動尊)

最勝寺は、慈覚大師が貞観2年(860)隅田河畔に一寺を建立して創建、良本阿闍梨が中興、明治維新まで牛島神社の別当を務めていたといえます。大正2年に本所表町(墨田区)から移転したといえます。江戸川区登録有形文化財の木造不動明王坐像は、もと本所表町にあった最勝寺の末寺東栄寺の本尊で、江戸五色不動のひとつ「目黄不動」で知られ、関

東三十六不動 19番となっています。また墓域には、江戸落語を定着させた烏亭焉馬の墓があります。→荒川リバーサイド→小松川橋→(ランチ予定)→小松川・境川親水公園散策

⑪ 中台院 (将軍家御膳所)

中台院は天文 8 年 (1539) に開かれたと伝えられる浄土宗の古刹です。享保 2 年 (1717) 将軍吉宗が放鷹の際の御膳所 (休息や食事をする場所) にあてられて以来、幕末まで将軍御膳所を務めている。吉宗が紀州から呼び寄せた、綱差役加納甚内の屋敷が隣接していました。

⑫ 善照寺 (角力寺)

善照寺は、隆範上人 (大永 2 年 1522 年寂) が開山となり創建、頼玄上人 (万治 3 年 1660 寂) が中興したといえます。慶安元年 (1648) には江戸幕府より寺領 6 石の御朱印状を拝領した他、元禄 12 年 (1699) に横綱明石志賀之助が境内で引退相撲を行ったのをきっかけに毎年草相撲が行われるようになり、相撲寺と呼ばれるようになったといえます。→寿光院

⑬ 源法寺 (堀まき寺)

浄土宗で寿覚山無量院と号し芝増上寺の末であった。阿弥陀如来をまつ。故嶽上人が天正四年 (一五七六) に開山し、その後観智国師及び信蓮社覚誉放岳上人 (慶安元年一月寂) が中興した。かつては三代将軍家光から隣村船堀村に御朱印六石を賜った古寺である。また慶長元年宇喜新田を開拓した宇田川喜兵衛の菩薩寺で、その木像を安置していたが焼失した。寛政九年の火災で堂宇や古記録を失い、その後防火用に回りに堀をめぐらしたので「堀まき寺」といわれた。昭和十年に本堂を再建したが、これも昭和二十年戦災で焼失した。今の本堂は昭和三十八年の再建である。墓地には宇田川家の墓所があり、江戸時代の狂言作者初代福森久助の墓がある。→泉福寺→江戸川区郷土資料館 (休憩)

⑭ 香取神社 (葛西囃子発祥地)

建治三年 (一二七七) といわれる。旧東小松川村の鎮守で村社に列していた。明治百年記念に建立した香取神社の標柱と二株のイチョウの老木が目につく。花崗岩の大鳥居は安永九年の建立で、境内に昭和三十二年に建設された「葛西囃子之碑」がある。社殿の裏には室町時代の貝塚があって土師器や須恵器が出土したが今は湮滅した。

⑮ 新小岩厄除香取神社 (小松菜発祥地)

厄除香取神社は、元和年間 (1615~23) に鎮座したといわれ、厄除神として、新小岩の厄除香取と呼ばれ信仰されている。享保 4 年 (1719) 8 代将軍吉宗が鷹狩りの際に当社に立ち寄り、餅のすまし汁に入れた青菜をととても喜びこれの青菜をこの地 (小松川) にちなんで「小松菜」と命名されたと伝えられている。それ以来、小松菜の産土神として、祭事には必ず小松菜を供えて祈願しているという。→JR 総武線「新小岩駅」(解散)